

第1号議案

令和2年度事業概況

令和2年度は、新型コロナウイルス対策に終始した1年となりました。

我が国経済は長期にわたり緩やかな回復傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響により、感染拡大防止のために東京2020オリンピック・パラリンピックの開催延期をはじめ、あらゆる場面において人の移動が制限され、政府による緊急事態宣言の発出などにより社会経済活動が抑制され大きく落ち込む事態となりました。

5月下旬の緊急事態宣言全面解除により、社会経済活動は段階的に引き上げられ、一旦は持ち直しの傾向が見られましたが、人の動きが活発になることにより感染が拡大する状況が繰り返され、政府による各種経済対策も実施されているものの、感染症対策と経済活動の両立の難しさが顕在化しました。

業種間による収益格差の拡大傾向も顕著になっており、回復には今しばらくの時間を要する状況となっています。

こうした中、観光需要にあっては、これまで右肩上がりが増加してきたインバウンドが消滅し、日本全国における訪日外国人旅行者は、前年の3,188万人から87%減の年間411万人と激減しました。

東北においても、外国人宿泊者数が前年の168万人泊から76%減の40万人泊となり、宮城県では、過去最高の53万人泊から77%減の12万人泊と大幅に減少しています。

令和2年1月に発生した新型コロナウイルス感染症は、一年経った今も世界中で猛威を振るっている状況であり、感染症拡大防止のために人の移動が抑制され、国民全体が移動を自粛したことから、国内においては特にバスや鉄道などの旅客輸送や観光、飲食などに関連する業界に壊滅的な打撃を与え暗い影を落とし続けています。

宮城県においても、度重なる緊急事態宣言や訪日外国人旅行者の消滅、テレワーク等の推進、イベントの中止、学校行事の自粛等により、バス利用者の減少に歯止めがかからない状況が続いており、バス事業を取り巻く経営環境は、厳しさを増すばかりの状況となっています。

協会といたしましては、国や地方公共団体等に対して事業継続のための支援要望活動を行うと共に、バスを安心して利用していただくために、新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインに基づいた予防対策の遵守やバス車両に対する消毒の徹底、バス車両の換気性能が高いことを証明するための換気性能の実演や新聞広告掲載、ラッピングバスを運行するなどして「新型コロナウイルスに対するバス車両の安全安心」を県民の皆様に広く周知するための広報活動に積極的に取り組みました。

1. 乗合バス事業

地方部における経営環境は、依然として厳しい状況が続いており、人口減少やバス運転者不足の深刻化、公共交通確保・維持のための公的負担の増加に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により利用者が更に減少し、地方の公共交通をめぐる経営環境は益々厳しくなっており、これまで比較的安定していた都市間高速バス事業も新型コロナウイルスの影響により大きな打撃を受けています。

このような中で、地域の足をどう確保するのが課題となっており、基本的には地方公共団体を中心となって、交通事業者をはじめとする関係者が連携して『地域公共交通網形成計画』を策定し、まちづくりと一体となった地域に適した交通ネットワークの形成に取り組んでいます。

協会といたしましても、関係する会議等に参画するなどして、運送事業者が主体となる安全安心な地域交通の確保維持を推進してまいりました。

次に、バス事故の約3割を占める車内事故防止のために、車内事故防止キャンペーンポスターを配付するなどして、転倒等のリスクが高い高齢者を中心に車内掲示やアナウンス等で事故防止に努めました。

また、高速道におけるシートベルトの着用については、バス出発時の案内等の対策に取り組みました。

また、乗合事業者に限らず運輸業界全体が、深刻な運転者不足に陥っており、予断を許さない状況下にあります。

バス協会といたしましても、運転者等の人材確保を課題として捉えており、運転手確保のための独自取組(バス運転手採用説明会)を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から実施を断念しました。

引き続き乗合バス事業の安定性・活性化に向けて関係自治体との連携を深め、地域のニーズを踏まえた最適なバス交通の確保を支援してまいります。

2. 貸切バス事業

新型コロナウイルスの影響により、観光需要がほとんど無くなる状態となり、国のGoToトラベル事業等により一旦は利用者の増加傾向が見られましたが、度重なる感染者増加の影響により、観光主体の貸切バス事業は、事業の維持すら厳しい状況が続いています。

軽井沢スキーバスの事故から5年が経過し、この事故を教訓にして貸切バス事業の安全性をより確実なものにするために設立された、「東北貸切バス適正化センター」は設立から丸4年が過ぎました。

今年度は、県内105営業所を巡回する計画でしたが、コロナ禍の影響を考慮しての訪問となったことから、48営業所の巡回にとどまりました。

主な指摘項目は「0」となっておりますが、軽微な口頭指導は東北全体で約153件となっており、主な指導内容は①運行管理関係が30.7%②運輸安全マネジメント24.2%③帳票類の整備・報告等が20.3%の順となっております。

貸切バス事業の安全性確保のために、指導における情報等を共有・連携しながら適正な業務執行を求めきたところです。

また、貸切バスの安全性を客観的に評価する制度でもある安全性評価認定の取得の呼びかけを進めるとともに、旅行業界や一般の利用者に対し『セーフティバス』のさらなる周知を図り認定が選択肢の基準となるように新聞等の広告媒体を活用して広く周知を図りました。

宮城県で認定を受けている会員事業者は、57社（1つ星19社、二つ星10社、三つ星28社）に達しております。

協会といたしましては、『セーフティバス』認定申請説明会を独自開催するなどして、安全性評価認定制度取得を推進しました。

○バス事業振興補助事業

1. 輸送の安全の確保事業

- ① 安全輸送全体会議
- ② 運行管理者一般講習
- ③ 運転者適正診断・適性診断活用講座・適齢診断
- ④ 交通安全啓発用広報資材等
- ⑤ 救急救命講習会
- ⑥ 脳検診・睡眠時無呼吸症候群スクリーニング検査助成
- ⑦ 貸切バス安全性評価認定制度助成
- ⑧ バス運転者の大型二種免許取得養成助成

2. サービスの改善及び向上に関する事業

- ① バス停留所上屋設置及び修繕等
- ② 利用者案内運行表示器設置
- ③ 仙台駅前バスのりば案内マップ
- ④ 仙台駅周辺バス乗り場サイン修正工事
- ⑤ 宮城県バス協会ホームページ修正
- ⑥ 宮城県バス協会加盟事業者一覧ポスター
- ⑦ デジタコ助成
- ⑧ コロナウイルス感染症予防対策

3. 地球温暖化防止及び環境保全事業

- ① バス車両購入助成事業

令和2年度事業報告書

自 令和 2年4月 1日
至 令和 3年3月31日

I 会 員 数

一般乗合旅客自動車運送事業	21	事業者
一般貸切旅客自動車運送事業	74	事業者
特定旅客自動車運送事業	14	事業者
計	109	事業者(29社兼業)
	(会員事業者数	80 事業者)

II 会 議

1. 総会

- 第44回定時総会
令和2年6月3日 参加者57名
「ホテルメトロポリタン仙台」

議 事

- 第1号議案 令和2年度事業報告並びに収支決算の承認について
- 第2号議案 理事及び監事の選任について
- 報告事項 ・令和3年度事業計画並びに収支予算について

2. 理事会

- 令和2年5月15日

議 題

- 第1号議案 令和元年度事業報告並びに収支決算の承認について
- 第2号議案 役員報酬規程の一部変更について
- 第3号議案 第44回定時総会の開催について
- その他 ・新型コロナウイルス関連に関する支援要望等について等

○ 令和2年7月3日

議 題

第1号議案 役員退職慰労金支給について

- 報告事項
- ・代表理事、職務執行理事の職務執行状況報告について
 - ・新型コロナウイルス感染被害に対する対応について
 - ・バスの絵コンテストについて
 - ・未収金回収の進捗状況について
 - ・バリアフリー教室について

○ 令和2年10月16日

議 題

報告事項

- ・代表理事、職務執行理事の職務執行状況報告について
- ・令和2年度第2四半期事業報告及び下期事業推進について
- ・新型コロナウイルス感染被害の対応について
- ・会員の退会及び未収金回収状況について

○ 令和2年12月23日

議 題

第1号議案 コロナ感染対策PRラッピングバスの運行について

- 報告事項
- ・代表理事、職務執行理事の職務執行状況報告について
 - ・第5回新型コロナウイルス影響調査結果について
 - ・交付金運用委員会概要報告について
 - ・会員の退会及び未収金回収状況について
 - ・公益法人検査結果について

○ 令和3年2月19日（臨時）

議 題

第1号議案 会費減免に伴う令和3年度の予算審議について

- 報告事項
- ・ラッピングバスの進捗状況について
 - ・福島県沖地震における被害状況について

○ 令和3年3月23日

議 題

第1号議案 令和3年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について

- 報告事項
- ・代表理事、職務執行理事の職務執行状況報告について

3. 委員会

○ 貸切委員会

令和2年8月11日 参加者 16名 「メルパルク仙台」

- 議題(1) 貸切事業に対する自治体への支援要請について
(2) G o T o トラベルの取組について
(3) 「新バス観光」の事業継承について

○ 交付金運用委員会

令和2年12月9日 参加者 15名 「ホテル白萩」

- 議題(1) 令和2年度宮城県バス事業振興補助金推定実績について
(2) 令和3年度宮城県バス事業振興補助金事業計画(案)について

○ 安全輸送委員会

令和2年12月3日 参加者 70名 「仙台サンプラザ」

- 議題(1) 年末年始の輸送等に関する安全総点検について
講師： 東北運輸局 宮城運輸支局
齊藤首席陸運技術専門官
(2) コロナ禍における安全輸送対策について

宮城県バス協会等主催（令和2年度事業）

(1) 新型コロナウイルスに対する貸切バスの感染症対策等PRイベント

令和2年8月18日 宮城県庁駐車場

参加者 宮城県観光・交通関係者、宮城県教育委員会、旅行業関係者
報道関係者 合計約39名

(2) コロナ対策PRラッピングバス運行

令和3年3月16日～9月14日

仙台～石巻線 高速バス 1台

仙台市内 一般乗合バス 1台

(3) 救急法講習会

令和3年2月24日 「石巻市輸送サービスセンター」
参加者 36名 実施機関：石巻消防署南分署
令和3年3月3日 「卸町会館」
参加者 65名 実施機関：仙台市若林消防署
令和3年3月9日 「トラック研修センター」
参加者 26名 実施機関：仙台市若林消防署

(4) バス事業者の安全性評価認定制度説明会（宮城県分）

令和3年3月17日 参加事業者 26社 「サンフェスタ」

「令和3年度貸切バス事業者安全性評価認定制度」について

公益社団法人宮城県バス協会 武山事務局長

(5) 運行管理者試験受験対策勉強会

①令和2年7月22日 「卸町会館」
参加者 68名
②令和3年2月5日 「卸町会館」
参加者 39名

(6) バス事業振興補助事業実績

①運行管理者（一般講習）	受講人数	324名
②適性診断（一般診断）	〃	665名
③ 〃（初任診断）	〃	121名
④適齢診断	〃	327名
⑤適性診断活用講座	〃	23名
⑥脳検診	受診者数	324名
⑦SAS	〃	494名
⑧デジタコ（併用器）		17台
⑨新車購入助成事業		20台
⑩中古車購入助成事業		11台